

被災森林の植栽における取組と課題について

・地震発生から約5年が経過し、被災森林の植栽が本格化。当組合では、これまで被害木整理を実施した堆積地の植栽を中心に進めてきたが、R5からは隣接する崩壊斜面の植栽にも着手。「胆振東部地震被災森林再生実施計画」に基づき迅速な復旧を進めている。

・崩壊斜面における植栽は土壌が硬く、急斜面での作業となるため作業員の負担が大きい(表1)。また、局所的に存在する不適地を避けるため、林業試験場が考案した手法により土壌調査を実施しており、その結果、植栽区画は飛び地が多く発生する等、測量にかかるコストが高い。こうした一連の作業を限られた労務・期間で完了しなければならず、崩壊斜面における植栽は凍上倒伏が発生しやすい秋期は不適である、という林業試験場の調査結果から春期に作業が集中している状況。

・今年度は植栽適期が長いコンテナ苗の活用と、裸苗の芽吹き状況を確認し入荷時期の調整をすることで計画どおりの事業量を確保。

・今後は植栽・測量作業の省力化に向けた取組を行う予定。

[被災森林における植栽作業の様子]



[通常植栽と被災森林の植栽の作業工程比較(表1)]

	通常植栽	被災森林の植栽
施工地面積 (ha)	2.26ha	2.87ha
事業実施期間	R4/4/20~R4/4/26	R5/4/21~R5/5/7
延べ人工数	14 人工	22 人工
ha あたり人工数	6.2 人工	7.7 人工

○ 今後の取組予定

- ・電動一輪車等による苗木運搬の省力化
- ・コンテナ苗活用及び植栽器具の模索 (R6 年度春に実証予定)
- ・視覚的判断による植栽区画の決定
- ・測量作業の省力化に向けたドローンによる測量の検討 (RTK ドローンの導入検討)
- ・植栽苗木の経過観察